

会 議 録

1 会議名

令和7年度第4回柿崎区地域協議会

2 議題(公開・非公開の別)

(1) 自主的な審議(公開)

- ・柿崎区地域協議会 各委員会の取組状況について
- ・団体との懇談結果及び自主的な審議事項のテーマについて

(2) その他(公開)

3 開催日時

令和7年7月15日(火) 午後6時30分から午後7時54分まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ 3階 305～307 会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者(傍聴人を除く) 氏名(敬称略)

- ・委員：吉井会長、中村副会長、金子委員、小出委員、小関委員
小山委員、坂木委員、佐藤(達)委員、佐藤(ま)委員
滝澤委員、蓑輪委員、山川委員
- ・事務局：柿崎区総合事務所 新部所長、松崎次長、片岡次長、
荻谷産業グループ長、石川市民生活・福祉グループ長、
岩片教育・文化グループ長、長井地域振興班長、熊木副主幹

8 発言の内容(要旨)

【松崎次長】

- ・地域協議会の開会を宣言。

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会議の運営は会長が行う旨を説明。

【吉井会長】

- ・会長挨拶。
- ・会議録署名委員に吉井会長を指名。
- ・次第 4 の自主的な審議に入る。(1)柿崎区地域協議会各委員会の取組状況について各委員長から報告をお願いする。最初にスポ×まちプロジェクトについて坂木委員をお願いする。

【坂木委員】

- ・佐藤（昌）委員長が本日欠席のため、代わりに報告する。
（資料 1 により説明）

【吉井会長】

- ・ただ今、坂木委員から説明があった。委員から質問等ないか。
（質問なし）
- ・滝澤委員、補足はないか。

【滝澤委員】

- ・今回は 3 団体と話をした。会議の進め方を熟慮してから取り組んだ方が良かったと思った。というのは、参加した人はここで話をすると我々に何かを解決してもらえるのだらうと思って話をする。最終的に「我々は何の実行力もないのです。ただ、平たくお聞きしたかっただけなのです。」ということで落ち着いた。
- ・また、ほかの団体からも話を聞いた方が良いと思う。テニスクラブは非常に組織化が進んでいて自分たちで大会を主催している。一方、ミニバスは基本的に保護者がアシスタントコーチになっていて、その子がいなくなるとまた次のアシスタントコーチが必要になる。また、ミニバスのルールも変わり小学校の体育館では対応できなくなるという不安があった。野球に関しては、中学校の部活動に地域移行と合わせながら上手にやっているという印象を受けた。クラブチームの予算申請だったり、中学校の先生が培ってきた関係を利用して試合を組んでいる。今ここで調査終了ではなく、もう少し広くほかの団体からも話を

聞きながら進めて行った方が良い。

【山川委員】

- ・ スポ×まちプロジェクトの動きとしては、今説明していただいた坂木委員と滝澤委員の話で特に補足はない。先ほどのスケジュールの中で出てきた NPO 法人 DEW さんとアポを取っていろいろ話を聞きたいと今後のスケジュールに組んでいるが、上越地区では NPO 法人のスポーツクラブとして、スポーツクラブあらいとふるさとづくり妙高、ユートピアくびきスポーツクラブ、さんわスポーツクラブ、おおがたスポーツクラブ、そして上越スポーツラボ DEW さんの 6 団体が NPO 法人で活動している。地域に根差したスポーツクラブではあるが、少し変わっているのが上越スポーツラボ DEW さんで青少年とか高齢者とか全世代を対象にスポーツが地域の居場所になるようにということで、地域のさらなる魅力を発見するということで活動している。この夏休みには、いろいろなスポーツの子どもたちの体験教室などを開いていて、まちづくりとスポーツを繋げる、そしていろいろなスポーツがそこを経由することで体験できるという活動をしている。柿崎もできたらそういう形が取れたら良いのかと思う。ぜひ、このスポ×まちプロジェクトでも参考にしていきたいと思う。

【吉井会長】

- ・ 今、NPO 法人が上越市内に 6 つあると言われたが、柿崎区に NPO 法人のスポーツクラブはないのか。

【山川委員】

- ・ ないと思う。柿崎スポーツクラブというのはあるが、スポーツラボ DEW さんのように広くホームページを作ったりして情報発信をしているところは、まだまだ足りないのかと思う。

【吉井会長】

- ・ 7 月 22 日に会議が予定されているが、スポーツクラブラボ DEW さんがこの日に来られるわけではないのか。

【山川委員】

- ・ 佐藤委員長がアポを取っているのかを聞いていない。情報としては、はっきりとわからない。いずれ勉強会も含めて、そういうところから話を聞けたらと思う。

【吉井会長】

- ・小関委員、追加の報告はないか。

(追加報告なし)

- ・それでは、スポ×まちプロジェクトの報告、質問を終了する。次に、ネットワーク柿崎の佐藤（達）委員長から報告をお願いする。

【佐藤（達）委員】

(資料2により説明)

【吉井会長】

- ・蓑輪委員、報告の追加はないか。

【蓑輪委員】

- ・スタートは、いろいろな自治体の取組を調べている中で「わが街ポータル」が良いのではないかという話から始まって、この地域の研修、視察をする中で頸城区のジモ活 BASE がより具体的に活動していて、かつ我々ネットワーク柿崎がやろうとしていることに非常に参考になるのではないかという第2段階に行き、最後に市の地域自治推進プロジェクトが、ネットワーク柿崎でやろうとしていることについて人員の面でもお金の面でも、最終的にいつも困るのが地域協議会は事業の主体になれないというところである。誰がやるのかがいつも問題になるが、ここまで過去を振り返った中で、まちづくり振興会に今市が進めている地域自治推進プロジェクトを取り込んでいけば最終的に良い形にできるのではないかというところまで来たのではないかと思う。

【吉井会長】

- ・金子委員、追加報告はないか。

【金子委員】

- ・今、2人から説明があったとおりで、いろいろな意見があって方向性がようやく見えてきたのかと思う。いろいろな問題、お金、人の問題が出てくるところを上手に取り入れて最終的な着地点を見出せそうなところで、今いろいろな意見を持ち寄って進めて行きたい。

【吉井会長】

- ・それでは、ほかの委員から意見、質問等あったらお願いする。

【小山委員】

- ・さきほどのスポ×まちプロジェクトとも関連するが、私は前期も地域協議会に参加していて、地域交通、空き家プロジェクトは委託先が見つかって、今順調に進んでいると思うが、今回のスポ×まちプロジェクト、ネットワーク柿崎、米山薬師を守る会の3つの事務局的なものをまた探すというところに来ていると思うが、すべてを担ってくれるところを探し切れるのかというところを皆さんから話を聞いていて疑問に思った。まちづくり振興会にという話もあったが、まちづくり振興会も人手不足という話を聞いている。今、この話がどこまで伝わっているかわからないが、本当に委託できるのかという心配もある。できたとしても長続きするのかという心配もある。だからと言って、どうすれば良いのかという答えもないが、柿崎区で全体的な事務局を一つ作れたら良いと今話を聞いていて思った。個々に事務局を置くのは大変だと感じた。

【吉井会長】

- ・ほかに意見はないか。
(意見なし)
- ・やはりこのまとめをどういう形でやって行くのかが一番の課題かと思う。それでは、最後に米山薬師の会にお願いする。

【中村副会長】

(資料3により説明)

- ・私個人の意見だが、今までやってきた内容を考えると、意見書を作るのが目的ではないのではないかと考えている。意見書を作るというよりも自分たちで解決案を考えるのが米山薬師を守る会の方向として良いのではないかと会議記録をまとめながら考えた。次回の会議の時にはその辺も含めて皆さんからいろいろ意見を聞きたい。

【吉井会長】

- ・ほかの委員から追加報告はないか。佐藤（ま）委員いかがか。

【佐藤（ま）委員】

- ・山岳会と総合事務所の人の話し合いがあったと聞いた。そこでどういう話があったのか具体的に聞いていないが、私が会長、副会長といつも話して共通しているのは、今後ここ数年は先細りになるだろうが協力はして行く、ボランティアもまずは顔が見えるボランティアを山岳会の元会員、ここにいるメンバー、

そして私たちが個々に誘えるようなメンバーをボランティアとしてスタートして、数年の間にノウハウを学んで行く、そして数年かけてボランティアの範囲を広げて行く、無理に一気にファンクラブを作るのではなく、まずは少しずつボランティアの輪を広げて行くのがベストではないかということである。徐々にファンクラブを広げて行くということは、ボランティアを広げて行くということでもあり、米山の魅力を広げて行くという役割もあると思う。それも少しずつ準備をしていかなければいけないと思っていた。それでジモ活 BASE の事務局に数回話を聞いてきた。ジモ活 BASE は今年度から頸城区以外にも手を広げて手伝いに行くということである。私は SNS の知識がないので相談したら、具体的にこういうことをしたいというのであれば、いくらでも来るということである。実際に担う事務局がないのであれば、いくらでもやるということであった。私がそれを「じゃあ、お願いします。」という立場でもないが、そういう可能性があるということであった。それは有償なのか、無償なのかと聞いたら、「些少なりともいただくことになるかもしれない。」とのことであった。当面はメンバーがボランティアの募集をジモ活 BASE の人と協力しながら広げて行くという可能性も見えてきた。「米山ファンクラブ」みたいなものを立ち上げると言って、いろいろ調べてみるとインスタグラムの中にも米山がたくさんある。柏崎に比べて柿崎は少ないという印象を受けた。広げる手法についてもジモ活 BASE の人にファンクラブの輪を広げて行く方法のヒントをいただいたので、それを少しずつ広げて行ければ良いという可能性も学んできた。

- ・二つ目は、米山のファンクラブを広げるのもそうだが、米山に関する資料、昔から歴史を知っている人が数少なくなってきていて、その人たちから話を聞ける間に記録として残しておくのも早めに始めないと時間が必要だと思った。その記録を集積して、記録を残しておければ柿崎の子どもたちが柏崎まで行かなくても良いようにしたいというのが願いである。

【吉井会長】

- ・小出委員、補足あるか。

【小出委員】

- ・今、中村委員長、佐藤（ま）委員が話したことでほとんど網羅されている。今後の進め方について、柿崎が少し手薄であるという実感は佐藤（ま）委員の言

葉からもあったと思う。私としては、そこを上越市としてもう少ししっかり取り組んでほしいと伝えて行く必要性はあるのではないかと自分を思っている。

【吉井会長】

- ・滝澤委員、補足あるか。

【滝澤委員】

- ・意見書を出さないと来年はどうなるのか。

【吉井会長】

- ・自主的審議事項をやって、その中でこれを解決するには上越市に全面的にやらしてもらわなくてはいけないということがあったら、我々は市長に対して意見書を出せる。自主的審議事項はやって、みんな意見書を出さなければいけないということはない。

【滝澤委員】

- ・出さないことによる影響で、一番大きなものはトイレ回りの作業になるかと思う。

【吉井会長】

- ・トイレの組立などは、市がやっていることである。それに関して市に対してさらにこうしてほしいとか、改善してほしいことがあったら意見書を出すのは我々の仕事である。トイレの解体も組立も、山頂小屋の管理、登山道の整備などすべて我々がこういうふうにするべきだ、こうしたら良い、だから市にこうしてほしいというのが意見書である。それがなければ意見書を出す必要がない。

【中村副会長】

- ・今、会長が言われたとおり、いわゆる市に要請するものでないのであれば意見書を出しても意味がない。私がさきほど言ったのは、直接自分たちで解決策を出すという手もあるとういことである。山岳会に代わる何か団体を、先ほど佐藤（ま）委員が言ったように最初からいきなり何十人も集めるのではなく、核となる人たちが一人ずつ増やしていくような形で、時間はかかるがそちらの方が今までの薬師を守る会の会議と合っているのではないかと思う。意見書を出すのが本来の目的ではない。来年どうするかという話になったが、ボランティアがなかなか集まらないようであれば、来年も同じような協議を続けて行かな

ければいけない。

【吉井会長】

- ・ほかに意見はないか。

(意見なし)

- ・ないようなので米山薬師を守る会の件はこれで終了する。それでは(2)団体との懇談結果及び自主的審議事項のテーマについて、小出委員から報告をお願いします。

【小出委員】

(資料4により説明)

【吉井会長】

- ・今、子育て中のお母さんグループとの懇談会の報告をしてもらった。今後、子育てグループから出た課題、要望について自主的審議事項に上げるのかどうかの検討をやって結論を出してほしい。この懇談会に参加した委員から追加や意見等あったらお願いします。

【小山委員】

- ・私も参加し親御さんたちの話を聞いて、ここにあるすべてがあった方が良くと思った。ただ、これをすべて実現できるのかというとなかなか難しいと思う。これを進めて行くには、もっとほかの親御さんの話も聞かないといけないのではないかと感じた。この中から優先順位を決めて行くべきなのではと思った。地域協議会でできること、また企業でできること様々あると思う。まず、新しくできる保育園がどこまでこれを網羅できるのか。いろいろ情報収集が必要なのかと思った。

【吉井会長】

- ・蓑輪委員、意見等ないか。

【蓑輪委員】

- ・私も何となくイメージは持っていたが、実際に生の声が聞けて良かった。特に印象に残ったのが課題の(3)で、行政の支援だけでなく子育てにやさしい会社も大事である。行政のいろいろな支援制度、自身及び夫が勤める地元の企業のベビーシッター制度や育児休暇制度の充実など官民で充実していることが他地区の人を呼び込むことになる。

【吉井会長】

- ・ほかに参加した委員で意見等ないか。中村副会長、いかがか。

【中村副会長】

- ・私自身があまり子どもを育てたという記憶がない。ほとんど年寄りに任せていた。当日、お母さん方から聞いた話は、そういう問題がたくさんあるのかと、今の子育て中の人たちの悩みを初めて聞かせてもらった。

【坂木委員】

- ・20年くらい前に子育てを始めたが、大体同じことを思っていた。今の母親はきちんとした考えを持っていると感じた。関東地方から嫁いできて、冬の間子どもが遊べる場所がなくて、市民プラザまで30分くらいかけて冬などに行ったことがあったので、そういうところはその頃からもう少しこの辺で遊べるようなところがあったらと感じた。今もそれは一緒なのだと感じた。

【吉井会長】

- ・私も懇談会に参加し感じたのは(1)にもあるが、こどもセンターが上越市にはオーレンプラザと市民プラザの2か所にしかないということである。このこどもセンターというのは、子育てひろばとは違う。こどもセンターというのは市が直営で職員を配置して子どもを預かる。それが日曜日もある。これがオーレンプラザと市民プラザにしかない。なぜオーレンプラザと市民プラザにしかないのか。これが一番感じたことである。子育てひろばというのは各地にある。例えば柿崎の場合、第一保育園内に開設されている。子育てひろばは土曜日はやっているが、日曜日はやっていない。日曜日に子どもたちを遊ばせるには、オーレンプラザか市民プラザに連れて行かないとない。柿崎からわざわざ30分以上かけてオーレンプラザや市民プラザまでこどもを連れて行き、遊ばせた後また30分、1時間かけて帰ってくるという、何と上越市というのは周りの地域を考えていないのだと思う。これを今まで私も知らなかったのがいけないのだが、こういう誰も知らないことを我々が調べて課題として上げるというのが、地域協議会としても価値があると思った。ほかになれば、これで終わりにする。

【佐藤（ま）委員】

- ・ここに子育て中のお母さんグループとあるが、これはあるグループ一つか。保

育園、各学校、地域で網羅したものではなくて、ある一定の考えを持った人たちか。これを基に今後のことを考えるとといった場合、やはりある特定のグループの意見だけではなく、全体的な意見、どちらかというところから出てくる人は弁が立って、意見をしっかり持っている。そうでないお母さんの意見も聞き上げる機会があればどうかと思った。これを以て柿崎のお母さんたちの意見全てだというのはどうかと思った。私自身、子育てから何年も離れているが、時々「あれ」と思うことがなくはない。できればもっと網羅的にする必要もあるのではないか。それが私たちの仕事ではないか。言いたいこともあるが、なかなかという人の意見も引き上げる場が必要かと思う。

【吉井会長】

- ・その辺も踏まえて班で検討していただければと思う。それでは、ほかになければ次に進む。その他について長井班長にお願いする。

【長井班長】

- ・次の会議の開催日程を説明する。
 - (1)第8回スポ×まちプロジェクト
 - (2)令和7年度第5回柿崎区地域協議会
- (当日配布物について説明)

【吉井会長】

- ・それでは、地域協議会をこれで閉会とする。

【中村副会長】

- ・地域協議会の閉会を宣言。
 - (午後7時54分閉会)

9 問合せ先

柿崎区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL：025-536-6701（直通）

E-mail：kakizaki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。